

アジ研図書館を通して知ったシリア（アジ研図書館 を使い倒す 第31回）

著者	ダルウィッシュ ホサム
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	238
ページ	66-66
発行年	2015-07
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00039791

アジ研図書館を通して知ったシリア

ダルウィツシユ ホサム

アジ研図書館と出会ったのは、日本で修士論文を書いていた時のことだ。大学から片道二時間以上かけて通い続け、エジプトの新聞や雑誌などの史料を読みふけた。筆者にとってのアジ研図書館の最大の魅力は、中東地域に関する一次資料の豊富なコレクションだ。

アジ研図書館について語る前に、シリア出身の筆者のバックグラウンドを少し紹介したい。筆者は今、中東の政治、主に現代エジプトとシリアの歴史、政治および社会運動に焦点をあてた研究を行っている。シリアでは、ダマスカス大学で英文学を専攻していた。当時から常々政治学を学びたいと思っていたが、独裁体制で言論や表現の自由がない国で、政治学のような分野を自由に研究することはむしろ不可能であった。シリアにいるにも関わらず、シリアや中東についての報道やアクセス可能な学術的知識は非常に限られたものだった。

多くのアラブ諸国では、三種類の書籍が禁じられている。政治、宗教そして性について客観的に検証する本である。特に政治を取り上げることは御法度だ。シリアで最も検閲が厳しいのは、アサド体制の支配構造に触れている本である。しかし現実には、人々の関心が集まるのはこのようなトピックを扱った書籍ではないだろうか。情報や知識が支配権力に独占され、本が手に入らない、または検閲された本しか入手できないという状況で、人々は自分たちの文化、

社会や歴史について客観的に読む機会が非常に限られている。ゆえに、世界の動きを知るため、BBCワールド・サービス、ラジオMonte Carlo Doualiya、Voice of Americaといった海外メディアのアラビア語放送を聞くわけだ。政治や経済についての客観的な情報や報道に触れるには、新聞や本ではなく、放送メディアに頼るしかない。アラブ世界でラジオとテレビの影響が大きいのはこのためである。二〇一〇年末に始まった「アラブの春」で放送メディアが果たした役割からも、その影響力の大きさが窺える。

アジ研図書館で出会った本のなかで、シリアの現代史、特に現在の大統領の父ハーフイズ・アル・アサド体制史の様々な側面について洞察を与えてくれた本をいくつか紹介したい。Volker Perthesの*The Political Economy of Syria under Asad* (一九九五年、IB. Tauris) は、シリアを取り上げた本のなかでも特筆すべき一冊である。アサドが一九七〇年に軍事クーデターで権力を掌握して以降、どのように体制を築き上げ、国を安定化し、経済再生を行ったかを解説している。Raymond Hinnebuschの*Syria: Revolution from Above* (二〇〇一年、Routledge) は、アサド体制下でシリアの社会、国家、経済が強制的に変容させられた過程を説明し、現在のシリアの国の成り立ちを知るうえで必読だ。Patrick Sealeの*The Struggle for Syria*:

A Study of Post-war Arab Politics, 1945-1958 (一九八七年、Yale University) は、シリアの国家主義的政治の内側を垣間見ることのできる本だ。アサド体制の側近集団とのインタビューをもとに、アサドが対米関係をどのように操作してきたかを浮き彫りにしている。シリアの政治と社会の変遷と、バース党の体制がほぼ半世紀にわたって権力の座に居続けることができた要因を理解する「ことがべきだ」。Hanna Batatuの*Syria's Peasantry, the Descendants of Its Lesser Rural Notables, and Their Politics* (一九九九年、Princeton University) は、現代シリアの農村部の社会政治的研究の結晶であり、与党バース党のルーツを辿り、アサド体制の特質と権力構造を検証した書籍である。このように挙げればキリがないが、アジ研図書館はシリアだけでなく、中東政治の研究を行ううえで、多くの資料とデータをアラビア語、英語、日本語で提供してくれる非常に心強い味方であり、研究の多大なサポートをしてくれる存在である。

ダマスカス大学の学部生だった頃、図書館の本棚はほとんど空っぽで、図書館は自習スペースを提供するだけの場所だった。図書館に対するイメージは、アジ研図書館を知ってから一八〇度変わった。幅広い分野の書籍、資料、データが豊富だけでなく、専門知識を持ったライブラリアンが的確なアドバイスをくれる。シリアから遠く離れた日本で、自分の国についてより深く知ることができたのは、アジ研図書館のおかげである。

(Darwish Housam / アジア経済研究所 中東研究グループ)